

# 報告書

第2回JLAシミュレーション審査会

# 目次

1. 概要
2. 审查会風景写真
3. 所感

# 第2回 JLA シミュレーション審査会の概要



## 第2回 JLA シミュレーション審査会

**2017年**

九州・沖縄・中国ブロック

**11月11日 土曜日** (新宮海水浴場・福岡県糟屋郡)

関西ブロック

**12月2日 土曜日** (片男波海水浴場・和歌山県和歌山市)

北海道・東北・北信越・関東・東海ブロック

**12月3日 日曜日** (大浜海岸・神奈川県葉山町)



**早期発見から医療機関への引き継ぎ運搬まで！**

ライフセーバーの海水浴場における監視活動中に発生するあらゆる水難事故・傷病を想定し、ライフセーバーの救助救命技術の向上やライフセーバー間の技術共有だけでなく、公的救助機関との高度な連携を図ることで傷病者の社会復帰を確実にすることが審査会の実施目的です。また、審査会を実施者・審査員が共に学び成長できる機会にするとともに、審査会を通じて、各地のライフセーバーと公的救助機関との連携促進を目指します。

**観覧見学自由**

- 参加 28 チーム (ライフセーバー 168 名)  
 役員・審査 42名、エキストラ・スタッフ 35名  
 葉山町消防本部 3名、粕屋北部消防本部 2名、福岡和白病院医師 1名、福岡県警察粕屋警察署 1名  
 岸和田徳洲会病院 医師 1名、堺市消防局 1名、海上保安庁 警備救難部 1名

- 想定の大略 係員統括 (以下統括) の「想定はじめ」の合図で計測開始とします。  
 6名態勢で通常の監視業務中に有事が起きてしまった。  
 他にも遊泳客は存在し、海のコンディションは当日の状況とします。  
 遊泳禁止等の判断は海浜組合・役場の3者と協議し決定しているため容易に変更できない状況です。  
 実施者により仮想 119 通報があり、救急隊要請された場合、後に救急隊が到着します。  
 統括の「想定終了」の合図によって審査終了とします。

制限時間 実施人数

1チーム **9分** 1チーム **6名** 内訳：監視長 1名・監視員 5名

- 審査項目
- ① 継続監視要領
  - ② 的確な観察要領
  - ③ 監視員連携要領
  - ④ 救急隊への引き継ぎ要領
  - ⑤ 観衆への対応要領
  - ⑥ 監視長の指揮要領
  - ⑦ 資器材の適正な取扱い要領
  - ⑧ 周囲状況を考慮した対応要領
  - ⑨ 搬送要領
  - ⑩ 関係者の対応要領
  - ⑪ 観察・救護要領

審査結果により平成 29 年 12 月 9 日 (土) JLA 納会にて  
 優秀チームを表彰します。

- 【主催】 特定非営利活動法人日本ライフセービング協会  
 【後援】 消防庁、海上保安庁、福岡県、神奈川県、新宮町、葉山町  
 【協賛】 株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン、株式会社櫻井興業 GUARD 事業部  
 【協力】 粕屋北部消防本部 (予定)、葉山町消防本部 (予定)、国土館大学防災・救急救助総合研究所、有限会社吉田三郎商店、  
 日本ライフセービング協会九州ブロック、神奈川県支部、新宮ライフセービングクラブ、NPO 法人葉山ライフセービングクラブ、  
 NPO 法人西浜サーフライブセービングクラブ、NPO 法人九十九里ライフセービングクラブ、東京消防庁ライフセービングクラブ

【お問い合わせ】  
 特定非営利活動法人日本ライフセービング協会  
 TEL.03-3459-1445 FAX.03-3459-1446 E-mail:info@jla.gr.jp ※当日のお問い合わせ：090-3221-8544 (事務局：中山) [www.jla.gr.jp](http://www.jla.gr.jp)

## 第2回JLAシミュレーション審査会の概要

### 【審査会の趣旨】

ライフセーバーの海水浴場監視活動中に発生するあらゆる水難事故を想定し、溺水者や傷病者を早期に発見し、迅速で的確な一次救命処置から救急隊及び医療機関へ引き継ぐまでの連携技能を高めることで、溺水者、傷病者の社会復帰を確実にする。

### 【審査会の目的】

監視業務継続中、有事の対応及び医療機関まで『命をリレーする一員』として、連携能力向上を目的とする。

# 第2回 J L A シミュレーション審査会の概要

## 想定 1

時間	項目	備考
0分	監視員（以下L S）詰所テントに実施チームは配置 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始	
開始同時	実施チーム詰所テントにクラゲ被害にあった浴客が来る	
開始15秒後	サーフボードに傷病者をうつ伏せに乗せたサーファーが波打ち際で助けを呼ぶ	
開始3分後まで	死戦期呼吸（L S 接触後2分間、補助呼吸実施していたら2分以降は呼吸なし） 上記直後に訓練用A E Dにより、解析開始、ショック その後レベル300、E A R無しE C C無し、外傷無し 長い金属のネックレス フルウェットスーツ（前ファスナー） 中にラッシュガード 衣類含む私物は友人の車内（駐車場） サーファーからの情報は沖でうつぶせに浮いていたのを2分前に発見、サーフボードに乗せ浜まで搬送との情報のみ 関係者（友人）は、浜まで搬送されてきた直後に接触、慌てており、L S 接触後30秒間は会話にならない、その後、荷物を取りに駐車場行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到1分後まで戻ってこなくなる。 駐車場に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、傷病者の名前 <sup>さげはしひろかず</sup> 提橋宏和or <sup>さげはしひろみ</sup> 提橋宏美、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答 090-7000-5762、住所は回答できない品川区とだけ回答、かかりつけの病院は東京都港区の大門病院、既往歴は狭心症、常備薬は車の中（ニトロールとか言っていました…）、友人の氏名は <sup>まがらとしみつ</sup> 相良敏光or <sup>まがらとしえ</sup> 相良敏恵、友人電話番号は 090-5577-4222、2人で遊びに来てシュノーケルで遊んでいたら20分前にはぐれた、傷病者のバイタル：死戦期呼吸及びその後呼吸無し、C P A以外は見たまま、友人は救急車に同乗可能（車はどうすれば…） <b>傷病者は生体のため胸骨圧迫は実施している様だけで行う。</b> 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。	
開始5分後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）	
開始7分	A隊長指示で、搬送開始 それまではA隊は観察継続	
開始9分	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了	

# 第2回 J L A シミュレーション審査会の概要

## 想定 2

時間	項目	備考
0分	監視員（以下LS）詰所テント（以下監視台）に実施チームは配置 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始	
開始同時	小児（小学四年生10歳：佐伯修司）がシュノーケルを装着し、遊泳エリア内でうつぶせ状態で浮いていた。（波打ち際岸から5m、水深1m付近）その小児が不自然に脱力状態なため、付近を遊泳していた遊泳者Aが抱え上げ、意識がないことに気付く。遊泳者A（実年齢、実氏名）は両腕で抱えた状態のままLS監視台へ搬送する。	
開始同時	上記小児の父親（年齢実年齢、会社員、佐伯幹雄）は、想定開始20分前に小児の救助に向かい溺水。波打ち際に打ち上っている。近くにいた関係者（友人）（実年齢、遠藤牧夫）は父親が救助に向かった様を目撃しており一時見失った（20分前）が、波打ち際で発見し助けを呼ぶ。	
付加事項	<p>小児のバイタル：（ダミー、意識レベル300、頻脈総頸40回/分、呼吸無し、気道確保後に呼吸回復、少量泡嘔吐（統括から呼称あり））は搬送途上で啼泣（ていきゅう）、それまで意識レベル300。バイタルをダミー胸部に表示。</p> <p>父親のバイタル：（生体中川委員、意識レベル300）死戦期呼吸（LS接触後2分間、補助呼吸実施していたら3分以降は呼吸なし）、LS接触後1分で連続3回嘔吐（麺類大量に準備）。CPA以外は見たまま、訓練用AEDにより、解析開始、ショック その後レベル300、呼吸無し、脈総頸触れず、外傷無し。</p> <p>遊泳者Aは開示同時刻の想定以外、何もわからない。確保しないとLS接触後直ぐに何処かに行ってしまう。</p> <p>関係者（友人）は、慌てており、LS接触後30秒間は会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、荷物を取りに駐車場行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到1分後まで戻ってこなくなる。</p> <p>駐車場に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。</p> <p>傷病者の名前 父親佐伯幹雄or 小児佐伯修司、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答 090-7000-5762、住所は回答できない品川区とだけ回答。</p> <p>関係者（友人）からの情報は沖にうつ伏せで流されている小児を父親が救助に向かい、その後、関係者（友人）は両名を見失った（20分前）。想定開始同時刻に浜に打ち上っている父親を発見し助けを呼ぶ。</p> <p>関係者（友人）は救急車に同乗可能（駐車場自家用車はどうすれば…） 父親は生体のため胸骨圧迫は実施している様だけで行う。 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。</p>	
開始5分後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）	
開始7分	A隊長指示で、搬送開始 それまではA隊は観察継続	
開始9分	車内収容完了 監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了	

# 第2回JLAシミュレーション審査会の概要

2017年11月11日（土）福岡県新宮会場 当日タイムテーブル

時間	項目	備考
10:00	係員集合 会場設営開始	
11:00	会場設営完了 エキストラ説明会開始	
11:30	エキストラ説明完了 審査員説明開始	
12:00	審査員説明終了 実施チーム受付開始	
12:45	実施順序抽選会（全実施チーム代表者本部テント前集合）	
13:00	粕屋北部消防本部 救急隊員3名様、審査員1名様 社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院様のご紹介 福岡県警察粕屋警察署地域第二課 課長のご紹介 事務連絡及び補足説明 審査長 初めの挨拶	
13:30	第1回目実施 九州産業大学ライフセービングクラブA	
13:45	第2回目実施 福岡大学ライフセービングクラブ	
14:00	第3回目実施 九州産業大学ライフセービングクラブB	
14:15	第4回目実施 新宮ライフセービングクラブ	
14:30	第5回目実施 広島国際大学ライフセービング部	
15:00	ドローンレスキュー デモンストレーション	
15:30	審査長 九州支部長 講評 事務連絡	
16:00	■実施チーム 撤収は審査員以外協力 撤収開始 車内積載開始 その後 解散	
16:15	■審査員は本部に集合 審査票調整後回収 審査員から意見收取 事務連絡 全係員解散	

2017年12月2日（土）和歌山県片男波会場 当日タイムテーブル

時間	項目	備考
10:00	係員集合 会場設営開始	
11:00	会場設営完了 エキストラ説明会開始	
11:30	エキストラ説明完了 審査員説明開始	
12:00	審査員説明終了 実施チーム受付開始	
12:45	実施順序抽選会（全実施チーム代表者本部テント前集合）	
13:00	和歌山市消防局 救急隊員3名様のご紹介 事務連絡及び補足説明 審査長 初めの挨拶	
13:30	第1回目実施 大阪ライフセービングクラブA	
13:45	第2回目実施 大阪ライフセービングクラブB	
14:00	第3回目実施 神戸ライフセービングクラブA	
14:15	第4回目実施 神戸ライフセービングクラブB	
14:30	第5回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブ	
14:45	第6回目実施 大阪体育大学ライフセービング部	
15:15	審査長 関西地区代表者 講評 事務連絡	
15:30	■実施チーム 撤収は審査員以外協力 撤収開始 車内積載開始 その後 解散	
15:45	■審査員は本部に集合 審査票調整後回収 審査員から意見收取 事務連絡 全係員解散	

# 第2回JLAシミュレーション審査会の概要

2017年12月3日(日)神奈川県葉山会場 当日タイムテーブル

時間	項目	備考
07:00	係員集合 会場設営開始	
08:00	会場設営完了 エキストラ説明会開始	
08:30	エキストラ説明完了 審査員説明開始	
08:50	審査員説明終了 実施チーム受付開始	
09:20	実施順序抽選会 (全実施チーム代表者本部テント前集合)	
09:30	葉山消防本部3名様 国土舘大学防災・救急救助総合研究所様のご紹介 海上保安庁警備救難部 救難課 海浜事故対策 係長のご紹介 事務連絡及び補足説明 理事長 初めの挨拶	
10:00	第1回目実施 湯河原ライフセービングクラブ	
10:15	第2回目実施 下田ライフセービングクラブ	
10:30	第3回目実施 湘南ひらつかライフセービングクラブ	
10:45	第4回目実施 九十九里ライフセービングクラブ	
11:00	第5回目実施 館山サーフクラブ	
11:15	第6回目実施 辻堂ライフセービングクラブ	
11:30	第7回目実施 波崎サーフライフセービングクラブ	
11:45	第8回目実施 熱川ライフセービングクラブ	
12:00	第9回目実施 中央大学ライフセービング部	
12:15	審査員 昼食	
13:15	第10回目実施 葉山ライフセービングクラブ	
13:30	第11回目実施 鎌倉ライフガード	
13:45	第12回目実施 大竹サーフライフセービングクラブ	
14:00	第13回目実施 銚子ライフセービングクラブ	
14:15	第14回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブ	
14:30	第15回目実施 西浜サーフライフセービングクラブ	
14:45	第16回目実施 逗子サーフライフセービングクラブ	
15:15	審査長 講評 事務連絡	
15:35	■実施チーム 撤収は審査員以外協力 本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 解散	
16:00	■審査員は本部テント内に集合 審査票調整後回収 審査員から意見收取 事務連絡 全係員解散	



# 第2回JLAシミュレーション審査会の概要

## 会場図



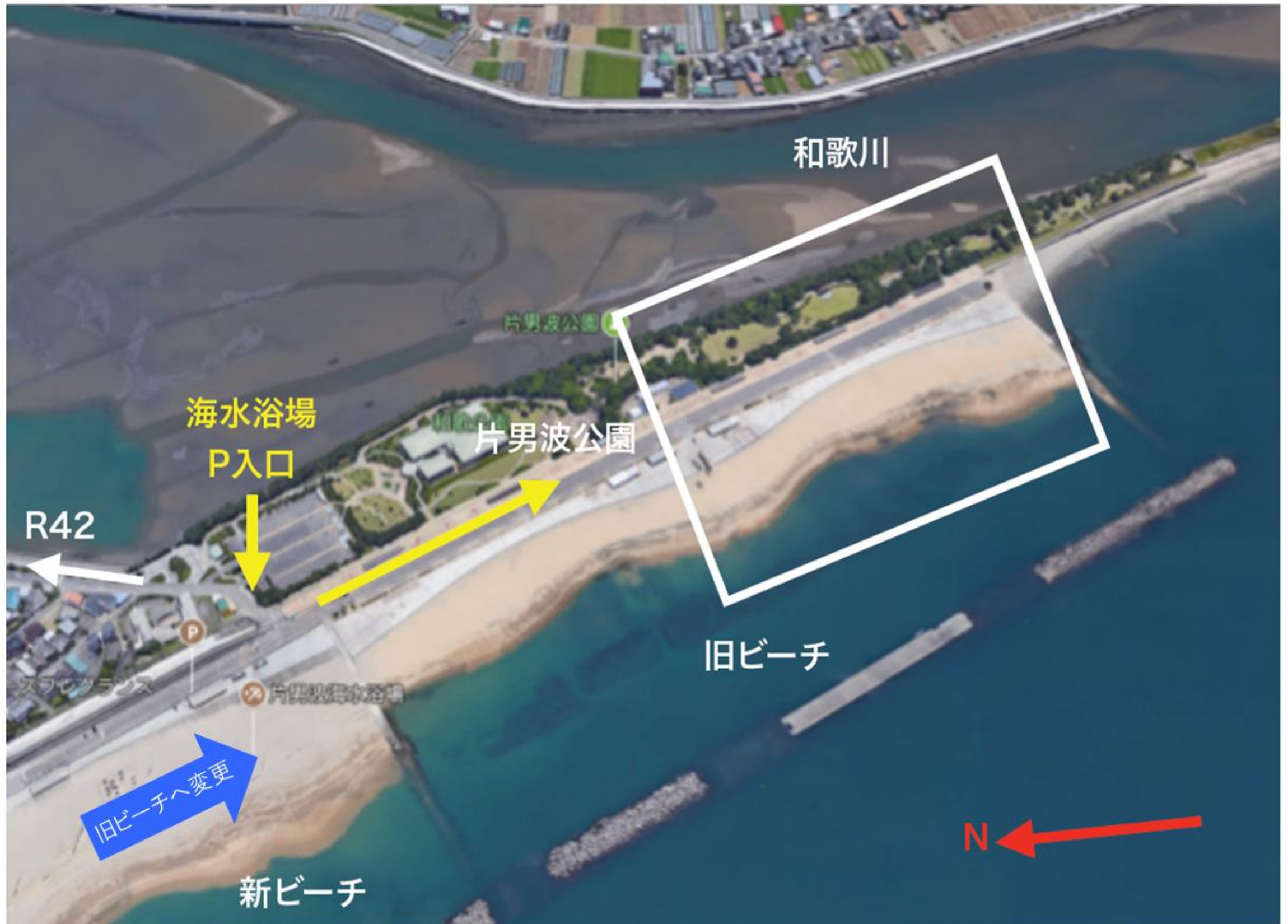
当日実機車両

救急車両停車予定位置

# 第2回JLAシミュレーション審査会の概要

## 会場図

### 片男波海水浴場 審査会 実施場所



# 第2回JLAシミュレーション審査会の概要

## 会場図





実施チーム・エキストラ・審査員・係員ともに本番さながらに実施しました。



ライフセーバーが引き継ぐ公的救助機関の方々から見た、評価や講評を頂き、我々にとって多くの学びがありました。

来年度以降の活動に活かし、医療機関までのリレーの一員として、高度な連携能力向上に邁進していきます。

粕屋北部消防本部 救急隊員 3名、審査員 1名  
 社会医療法人財団 池友会 福岡和白病院 審査員 1名  
 福岡県警察粕屋警察署地域第二課 課長 審査員 1名



集合写真には、救急車・消防車・パトカーも多くの企業様の支援のもと運営されています。





和歌山市消防局 救急隊員3名の方々  
真剣に想定に取り組んでくださる姿勢に  
深く感謝申し上げます。



実施チーム・エキストラ・審査員・係員ともに本番さながらに実施しました。



現場早期出発を目的に、  
傷病者記録票を活用し、救急隊  
への申し送り、連携、引継ぎに  
トレーニングしていきます。





愛知・徳島・岡山・大阪・京都・兵庫・福井・神奈川  
からのメンバーが参加しました。



審査会終了時には  
葉山消防本部3名の方々は  
衣服の色が変わるほどの真剣に  
取り組んでくださり  
会場にいたライフセーバー皆  
心打たれています。



海上保安庁警備救難部 救難課 海浜事故対策係長からは、審査員として  
審査票の検討推奨事項から沢山のアドバイスを頂きました。





実施チームは想定終了直後に  
検討事項を自ら感じ  
本番さながらの想定から得た  
失敗は、必ず次に活かすことができます。



午後は普段救急救命士として本業を持つライフセーバーによる救急隊エキストラ  
で実施しました。  
葉山消防本部様と可能な限り同じ動きを心がけました。救急隊員から見た検討  
事項も見えてきます。

## 2017年12月3日（日）神奈川県葉山会場 風景



国土舘大学防災・救急救助総合研究所様から借用した救急車両を活用した結果

車内収容支援含め、有事の際に支援できる動きを確認できました。



多くの観客の元、実施チームは本番さながらの緊張感で観る側は、普段じっくり見れない環境で学ぶことができました。



多くの企業様の支援のもと運営されています。

閉会式では、各地域クラブから選抜された審査員により講評を頂きました。この言葉は、我々にとって次につなげる財産となります。





全実施チーム27チーム  
実施者162名 係員80名 見学者約100名  
合計約340名

多くの参加者のもと実施された第2回JLAシミュレーション審査会は、今後大きなイベントとして飛躍する可能性を確信しています。



# 【所感】

日本ライフセービング協会に登録しているライフセービングクラブが活動する全国207カ所の海水浴場では、各々、有事を想定した事故対応訓練（シミュレーショントレーニング）を実施しています。

ライフセービングは、事故を未然に防ぐことが第一の目的です。

しかし、実際には数万人の水浴場利用者に対して、十数人で監視するには限界があるのは否めません。そこで普段の備えとして、有事を想定したシミュレーショントレーニングを行うことが重要となります。

そのトレーニングレベルは様々で、水浴場利用者数が一日に数万人となるような場所では、様々な経験からなるトレーニング内容が実施されています。一方、一日の水浴場利用者数が数十人の場所では各事象が少ないため、ライフセーバー自体の有事対応の経験値に大きな差が生まれてしまいます。

このような背景があるものの、ライフセーバーには、普段のパトロールでは高度な連携技能が求められ、その連携能力が有事にも発揮されなければなりません。

更には、有事発生時に医療機関まで早期搬送するには、『医療機関までリレーする一員』として自覚し、公的救助機関との高度な連携能力が重要と考えます。

消防白書\*1によると、救急車が、災害現場に到着してから医療機関に到達する時間は、全国平均【30分48秒】

救急隊が、災害現場を出発してから医療機関到着までは全国平均

【11分30秒】

現場で20分近く何をしているのか

傷病者の情報をとったり、荷物を回収したり、友人などの関係者や救急車に同乗する人物を確保したり救命救護だけでなく様々な活動を行っています。

救急隊が医療機関に早く出発できるようライフセーバーには協力できることがあるのです。

普段から日本ライフセービング協会が推奨する『傷病者記録票』を活用するなど、救急隊への申し送りや、事前に情報聴取は、医療機関へ早期搬送に対して有益な行動となります。

チーム単位のトレーニングと違い、審査会の実施で、より実際の災害現場に近い環境下であり、観衆に囲まれての環境で実施。

事後に審査会の検証会や、審査員の審査票から検討推奨事項を全国に発信し、来年度の全国のパトロール活動に活用することで、島国日本の安全沿岸利用に繋がればと願ってやみません。

全国の水辺で起こる事故は防げる、又は発生してしまった後、予後を大きくしない活動にライフセーバーは審査会を通して、様々挑戦していきます。

医療機関まで搬送リレーする一員として、情報申し送りをより効率的・迅速に行う。

我々の行動で【30分48秒】が28分や27分になるかもしれない。

助けられる命のリレー 挑戦していきます。

特定非営利活動法人 日本ライフセービング協会  
溺水防止救助救命本部  
パトロール能力向上委員会  
第2回JLAシミュレーション審査会 実行委員長 菊地太

\*1 <http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h29/h29/index.html>